

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4271102339		
法人名	有限会社 やまぐち企画		
事業所名	グループホーム あかり		
所在地	長崎県長崎市上黒崎町665-1		
自己評価作成日	令和2年11月6日	評価結果市町村受理日	令和3年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年 12月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を海・山・畑に囲まれた自然豊かな環境の下で、静かに穏やかな生活を送れるように支援しています。ホームでは食生活に重点を置き、ホームの畑でできた野菜や地元農産物を中心にスタッフがすべて手料理を提供しています。また、体調や嗜好に合わせて調理し、可能な限り摂取してもらえるように努めています。地域との交流もあり地域行事には積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「たのしい・うれしい・よかった」を利用者・家族、地域住民など全ての人と共有できるように、職員は日々具現化に取り組んでいる。施設長は毎月の職員会議の場で職員の声を汲み取り、希望休等の勤務体制や時間外手当などを調整し、働きやすい職場づくりに徹している。医療面では、施設長が看護師であるため、主治医との連携を図りながら一年かけて褥瘡を治した事例がある。更に終末期の点滴の停止は本人の負担を減らすためであると説明し家族同意の下、“本人本位の看取り”を支援していることは、特筆すべきである。新型コロナ禍で面会できない家族に、付箋にメッセージを添えた写真や便りを毎月送付し、電話で状態の変化を直接伝えることで安心と信頼を強めている。施設長の急がず見守り“その人に合った支援”に注力する姿勢を手本に、職員がチームワークよく、理念の具現化に実直に取り組むホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議で時々理念を再確認し、理念に沿った介護で支援できるように努めている。	玄関に理念を掲示し職員の意識を高めている。職員は急がず時間をかけ、その人に合った支援に注力する中で「たのしい・うれしい」時間を築いている。また、看取り支援後家族から「ここでよかった」と感想を得るなど、全ての人との関わりにおいて理念の具現化に繋がっていることが窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会していて、行事ごとには積極的に参加している。	自治会に加入し回覧板が回ってきている他、地域住民との散歩時の挨拶、果物や魚の差し入れ等日常的に交流がある。新型コロナ禍による自粛前までは、ホームで保育園児との七夕祭り交流会を開催し、園児に果物を渡している他、近隣の一人暮らしの高齢者に配食を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	端午の節句やクリスマス会では一人暮らし高齢者にはちまきや配食をしていたが、新型コロナウイルス感染防止の為休止しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の意見・意向及び自治会からの情報や意見を聞き、課題解決に行政・包括支援センターの理解をと指導を受けながらサービス向上に努めている。また、近隣事業所との交流と意見交換を兼ねてお互いの運営推進会議に参加している。	今年度第1回から新型コロナウイルス感染防止のため、書面会議で対応している。運営推進委員へ活動状況報告書を配布後、市や包括から届いた質問事項に回答している。同地区の事業所と会議を互いに行き来しており、連携を図り情報を得ながらサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の窓口で気軽に相談や指導を受けるために協力関係を築くように努めている。	定期的な市担当課職員の訪問の他、行政から案内がある研修等に職員が参加している。書類の書き方など不明な点を問い合わせている他、提出の際は郵送せず出来るかぎり直接出向くなど、日頃より協力関係を築くように努めている。今年8月は公民館にて市の実地指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会と「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、身体拘束廃止の対象となる具体的な行為をしていないか、3ヶ月に1回の研修と全職員で確認し合っている。	身体拘束の適正化に向けた委員会を内部研修と併せて3ヶ月に1回開いている。言葉遣いを課題とし、施設長は命令口調や方言の使い分け等に配慮し支援するよう指導し、職員間でも話し合い改善に向けて取り組んでいる。ただし、毎回研修会の内容が指針の読み合わせで留まっている。	定期的な委員会及び研修が、更に充実した内容となるよう、他事例も含めた事例検討や、NGワード集などを取り入れ、支援を振り返りながら職員間で理解を深めていくことが望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に数回内部研修し、入浴時や更衣時に異常の早期発見に努め、異常を発見した場合は早期に原因を究明し対応するようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員の理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず契約の締結・解約又は改定等の際は、理解して貰っているかを確認しながら分かりやすく説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や毎月利用者の状況を報告し、ご家族の要望や意見を反映できるように努めている。また医療機関と家族との連携が上手くいくように反映している。	契約時に苦情解決の流れは説明している。新型コロナ禍で、面会は減少しているが、希望があれば距離を取っての面会を支援している。毎月発送する便りには写真にコメントを付ける他、メールや電話などで連絡を取っており、利用者の様子を家族に伝えるために工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の定例会議や必要に応じて職員の意見や提案を聞き、反映するように努めている。	施設長は、毎月の職員会議で不足している物や困っていることがないか尋ねている。個人的な相談にも乗り、月1回の有給休暇取得、シフトの調整など配慮し職員の働きやすい職場環境となるよう努めている。職員の要望からシャワーチェアを購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格・経験年数・給与水準・時間外労働・勤務状況などに対して、向上心を持って働いてもらえるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの困難事例には口頭・実技指導し、研修委員を設置しているので法人内外の研修を受ける機会を確保してトレーニングが出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会に入会し、会議や研修会に参加し同業者と交流する機会がある。また、運営推進会議では近隣の同業者と相互訪問でサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する場合は、密に会話する事で本人の不安や要望などに耳を傾け、安心できる場所と思ってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いを把握し、家族のこれまでの状況や要望に耳を傾けながら、安心してもらえるように努めている。必要時は家族とかかりつけ医・専門医との連携に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人と家族の話に耳を傾け、サービスの内容説明や相談を受けながら、これまでと生活習慣が急な変化にならないように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活能力に応じて手伝いをしてもらう事で感謝の気持ちを伝え、暮らしを共にする者同士として関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が後悔しないで利用者との時間を大切にしてもらうように、外出や外泊できるように努めていたが、最近は新型コロナウイルス感染予防の為玄関での面会だけにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時や通院時に地域住民から声かけられている。また馴染みの美容院を利用できるように支援している。	昨年は、家族や教会の神父の訪問もあり、日常的に馴染みの人と交流している。今年は新型コロナ禍で、感染予防に徹する中、個別に馴染みの美容室や墓参りなど本人の体調に合わせて支援している。また、病院受診時に馴染みの場所にドライブするなど工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はほとんど利用者がホールに集まり利用者同士が会話している時間が多く、意思疎通が困難な利用者にもスタッフが声掛けや耳を傾けながらスムーズに関わりを保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも面会に行ったり、初盆まではお供え物をあげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の要望や意向に耳を傾け、ご家族へ状況報告している。できるだけ利用者の意向に添えるよう家族の協力を得ながら支援できるように努めている。	利用者一人ひとりの希望や意向は、夕食後にゆっくりと話し聞き取っている他、居室で1対1で会話することもある。新しく入居した利用者とは多く会話することで、これまでの生活が見えてくるため、把握した情報は全職員で共有し支援に繋げている。難聴の利用者には、頭を付けて骨振動で会話している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に、生活歴・生活環境その他必要事項を利用者・ご家族・ケースワーカー等の関係者から情報を得ながら生活環境を調整しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを把握し、体調や自力でできる事を考慮しながら自分で出来ることはできる範囲内でしてもらうように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望・意向を聞き、医療機関の意見及び指導を受けながら介護計画に生かしている。また、利用者や家族に変化が生じた場合は、実情に応じたケアが出来るように随時話し合い介護計画を立てている。	短期3ヶ月・長期6ヶ月の介護計画を作成している。毎月カンファレンスにより全利用者の状態の把握に努めている。家族には面会時や電話にて家族の希望を聞き取り同意を得ており、本人と家族の意向内容は、その都度更新している。ただし、介護計画と連動した介護記録においては、本人の様子や変化などの記載が充分ではない。	現段階では、施設長が利用者が発した言葉や状況などを詳細に記載し、それを見本とするよう指導を行っているところであるため、引き続き職員間で記載法を統一していくことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に個人の一般状態・食事及び水分量・服薬状態・健康チェック当を記録し、実践や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、ニーズに沿った多様なサービスが出来るように職員一同がモニタリングで状況を把握し、柔軟なサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や包括支援センターなどで地域資源を把握しながら安全で豊かな生活が出来るように情報を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時には入院準備・医療情報提供・介護サマリーの作成等、本人や家族が安心して入院治療が出来るように支援している。回復状態によっては医療機関と情報交換し、家族・かかりつけ医と協議して退院に向けて支援している。	協力医をかかりつけ医としており、2週間毎に往診を受け、訪問看護も利用している。施設長が看護師を兼務し隣接する自宅で宿直体制にあり、医師への報告等迅速に対応している。継続した他科の通院などは、基本的に家族が同行しており、結果を記録し職員間で共有している。主治医との連携により一年かけて褥瘡を治した例もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師・介護支援専門員を兼務しており、日々の知り得た情報や気づきを職場内で共有し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院準備・医療情報提供・介護サマリーの作成等、本人や家族が安心して入院治療が出来るように支援している。回復状態によっては医療機関と情報交換し、家族・かかりつけ医と協議して退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りに説明して締結している。その場になった時、家族・かかりつけ医・事業者が話し合って取り組んでいる。又、事業者も家族が寄り添って看取りが出来るように利用者と最後の時間を大切にしてもらうように取り組んでいる。	今年度は2例の看取り支援がある。重度化した場合の指針を、利用開始時に家族へ説明し同意を得ている。終末期は、主治医より点滴の停止など負担を減らすための説明を行い家族同意の上、「本人本位の看取り」を支援している。施設長が職員の精神面をフォローし、その都度反省点を振り返るなど積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に対するマニュアルを作成し取り組んでいる。また、看護師が不在する時は、事前に医療機関に連絡を取り協力を得られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火・災害時の避難訓練を利用者とスタッフ全員で毎月1回、また消防署の立会いで年2回訓練を行い、その時は地区消防団の協力得ることもある。またスタッフがホーム内の防火点検を毎月行っている。災害時の避難訓練も年一回行っている。	毎月の消防訓練では昼間と夜間想定、搬送方法の実践等様々な想定内容が確認できる。総合訓練は年2回実施し、内1回は新型コロナ禍の為消防署立会いが中止となっている。反省会では課題や消防署からの助言を職員間で共有している。今年5月地震災害を想定し公民館まで避難訓練を行っている。非常持ち出し品や備蓄整備もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや介助時には一人ひとりに気遣いながらその人に合った対応をしている。特に排泄誘導時・排泄介助時は声掛けに注意し、プライバシーを確保しながら支援している。	利用者のプライドを最大限尊重し支援している。職員は利用者と呼ぶ時は苗字にさん付けを基本とし、本人が苗字ではなく名前を希望する時には対応している。居室への入室は必ずノックし声掛けしている。会議録には利用者の氏名を記すことなく、職員間でわかる工夫がある。利用者の記録類は所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、本人の思いや要望を聞きながら自己決定できるようにしている。特に嗜好品や洋服等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその時の体調と気分に合わせて、個別性のある支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に似合った髪型や毎朝の整容・季節に合った洋服や本人の気に入った服等で身だしなみとおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て職員の手作りで、利用者の嗜好や体調に合った食材選びと調理方法で支援している。また、利用者の能力に合わせて調理の下ごしらえ・テーブル拭き・お膳拭き等のお手伝いをしてもらっている。	毎日、当番の職員が冷蔵庫などにある食材を使って献立を考え調理している。利用者の好き嫌いを把握しており、苦手な食材は別のメニューを提供している。誕生日にはおやつの時間にケーキでお祝いしている。社長が育てて収穫する野菜を豊富に用いた郷土料理など、利用者が喜んで食事できるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を記録し、体調によっては高カロリー栄養補助食品の利用や栄養バランスをかかりつけ医と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きへの声掛けと介助及び寝る前には入歯洗浄剤での消毒している。口腔内の症状がある時は歯科受診の介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はほとんどの利用者がオムツを使用せずリハビリパンツと尿取りパットを使用し、歩行できる利用者はトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を作成し、定期的に誘導することで失敗がないよう支援している。パッドは居室内で管理しており、ポータブルトイレは使用する度に洗浄すると共に消臭剤を設置し、臭い対策を行っている。パッドのサイズを検討し、本人に合うサイズを提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を毎日チェックし、便秘させないようにかかりつけ医と相談しながら、服薬量・服薬時間を個々に応じて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2～3回になっているが、利用者の希望や体調に合わせて清潔保持に、シャワー浴も出来るように支援している。	夏季は週3回、冬季は週2回の頻度で入浴を支援している。入浴しない日は清拭している他、汚染時はシャワーを使用している。浴槽を跨ぐことができるか否かでシャワー浴への転換を判断している。入浴時は、歌を歌ったり、会話して楽しい時間となっている。冬至はゆず湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止に日中はほとんどホールで過ごして貰っているが、体調や希望によって休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と内服薬の内容・用量・副作用を確認しながら、正職員が服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や体調に応じて、気分転換や喜びを感じてもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望により外出・外泊の支援し、出来ない利用者には外出・散歩・遠足などの支援をしていたが、新型コロナウイルス感染防止で家族との外出や外泊ができない状態である。	桜の花見やおにぎりを持参しての道の駅までのドライブなど、従来から利用者の外出を支援している。今年は新型コロナ禍で難しいため、玄関前の花壇を見に外に出て外気浴を支援している。また、リビングや居室の窓を開けて換気し、外気を入れることで気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と能力に応じてお金が使用できるように支援しているが、現在はほとんどの利用者が金銭管理が困難状態で、家族が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族が希望される時は、その都度電話で話されるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、温度・湿度・空調に気配りをしながら清潔で居心地が良く暮らせるように支援している。また、季節を感じてもらうように行事ごとに飾り付けをしている。	木造による設えや玄関の火鉢など温かみのある共有空間となっている。リビングでは利用者がソファやテーブルに集い寛ぎ、キッチンからの調理の音や匂い、職員の明るい声掛け、梅干しやらっきょう瓶等家庭的な暮らしが窺える。職員は季節の作品飾りで室内を彩っている他、畑や庭の手入れ、清掃や空調管理など環境整備に徹している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で安全に考慮しながら、自由に思い思いに過ごせるように支援している。また、気の合った利用者同士が良く会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族が使い慣れた寝具や備品を活かして本人が居心地よく生活出来るように支援している。	海や山などの自然を見渡せる落ち着いた環境にある。居室は1階と2階にあり、エレベーターを設置している。持ち込みに制限はなく、使い慣れた家具などを自由に使用している。ベッド下には滑り止めマットを敷き、安全に配慮している。フローリングのワックス掛けなど、職員の掃除は行き届いており、清潔感のある居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が能力に合わせて安全に活動意欲が低下しないように職員が見守りや声掛けをしながら支援している。また、状況によっては家族と相談しながらベッド上から床に布団を敷き転落防止する事もある。		